

第3次千葉県青少年総合プラン 令和4年度事業評価シート

事業NO 39

事業名	キャリア教育推進事業		
担当課・室・班名	教)生涯学習課	問合せ先(電話番号)	4069

1 事業の概要

柱	I	基本目標	2	基本方策	④職業能力の習得/就労支援の充実					
事業内容	①夏休みなどを活用した学校外におけるキャリア教育・体験活動の機会を、企業等と連携しながら提供する千葉県夢チャレンジ体験スクールを実施する。 ②子供達が親や大人の働く姿に接することができるよう、企業等に「子ども参観日」の実施を呼びかけるキャンペーンを実施する。									
当初予算額(千円)	H30年度	2,374	R元年度	2,374	R2年度	2,144	R3年度	2,144	R4年度	2,134
決算額(千円)		2,126		1,826		983		700		776
財源内訳	県単(○)	他財源	県単(○)	他財源	県単(○)	他財源	県単(○)	他財源	県単(○)	他財源
	○		○		○		○		○	

2 事業実績・評価等

(1)事業の実施結果(4年度)

①・新型コロナウイルス感染症の影響により、中止した講座があったが、ほぼ予定通りに実施することができた。(小学生182名、中学生111名、高校生26名が参加)
 ・参加した児童生徒からは「講座がおもしろかった」「科学技術や理科に対する興味関心が高まった」などの感想があった。

②・新型コロナウイルス感染症の影響により、県立機関や県立学校(全4カ所)のみの実施となり、企業等による実施報告はなかった。また、「県庁子ども参観日」については、8月2日に実施した。(53名が参加)

(2)事業の成果(4年度)

①・参加者の満足度が高い。(アンケート結果から、科学・先端技術スクール参加者の100%、キャリア教育しごと体験スクール参加者の100%が満足)
 ・キャリア教育しごと体験スクールでは、充実した事前・事後プログラムにより、参加者の「仕事」に関する意識が大きく変容した。

②・参加者からは「みんなの暮らしをより良くするために大変な仕事もみんなの手分けして働いてくださってありがとうございました。大変な仕事をして疲れているはずなのに、家で遊んでくれるお父さんに感謝しようと思いました。」「みんなのために働いていてカッコよかったです。」などの感想があった。

3 事業の課題・問題点、今後の方向性等(4年度)

①・協力企業等には、可能な限りコロナ前と同様の協力が得られるよう、連絡を密にとりながら、開催内容について検討し、参加する児童・生徒にとって充実した体験となるように実施していく。

②・可能な限り、コロナ前の開催内容に戻していき、親子での体験等の時間を充実させていけるようにする。

4 関連指標

関連指標						目標	
	基準年	H30	R1	R2	R3	R4	

5 委員意見

--

第3次千葉県青少年総合プラン 令和4年度事業評価シート

		事業NO	42
事業名	小・中・高等学校のキャリア教育総合推進事業		
担当課・室・班名	教)学習指導課	問合せ先(電話番号)	4061

1 事業の概要

柱	I	基本目標	2	基本方策	④職業能力の習得/就労支援の充実					
事業内容	中学校・高等学校におけるキャリア教育・進路指導の担当者等が、キャリア教育・進路指導の在り方について研究協議、情報交換を行うことにより、今後の指導の充実・改善に資する。									
当初予算額(千円)	H30年度	150	R元年度	150	R2年度	150	R3年度	0	R4年度	0
決算額(千円)	H30年度	150	R元年度	150	R2年度	100	R3年度	0	R4年度	0
財源内訳	県単(○)	他財源	県単(○)	他財源	県単(○)	他財源	県単(○)	他財源	県単(○)	他財源
	○		○		○					

2 事業実績・評価等

(1)事業の実施結果(4年度)

・中学校においては、書面で「キャリア教育・進路指導研究協議会」を実施し、大学教授等の講演資料や参加者が持ち寄った資料で情報共有を行い、すべての教育活動をととしてキャリア教育が推進できるよう指導力の向上を図った。

・高等学校においては、6月と11月に書面で「進路指導研究協議会」を開催し、千葉労働局等関係機関からの資料を配布し、情報提供を行った。また、アンケートにより、各校の進路指導の状況や課題についての情報を収集した。

(2)事業の成果(4年度)

・中学校においては、「すべての教育活動を通したキャリア教育の在り方」を全体テーマとし、キャリア教育・進路指導の担当者等が自校の実践や考えをまとめたものや資料をもとに、情報交換を行った。

・高等学校においては、就職・進学に関する資料配付、進路事故防止、キャリア教育について協議した。

3 事業の課題・問題点、今後の方向性等(4年度)

・中学校、高等学校においては、今後は「キャリア・パスポート」の有効な活用方法、各教科の学びと関わりを意識したキャリア教育、幅広い地域との連携を周知していき、「小・中・高」の系統的なキャリア教育を推進していく必要がある。

・オンラインを活用したインターンシップや職場体験についても検討していく必要がある。

4 関連指標

関連指標	[キャリア教育の推進] 職場体験・インターンシップを実施している公立学校の割合					目標	中学校 100% 高校 90.0%
	基準年(H28)	H30	R1	R2	R3	R4	
	中学校 97.2% 高校 88.9%	中学校 98.1% 高校 87.3%	中学校 96.6% 高校 89.6%	調査未実施	中学校 19.9% 高校 33.3%	中学校 29.9% 高校 44.8%	

5 委員意見

--